

令和2年度第1回(第49回)地方独立行政法人鳥取県産業技術センター評価委員会

1 日時 令和2年7月10日(金)13時30分から15時まで

2 場所 (地独)鳥取県産業技術センター大会議室

3 内容

(1) 産業技術センターから令和元年度業務実績について説明

(2) 質疑応答

(○:委員の質問)

○若い層の人材育成は非常に重要である。中小企業では、60代の次が30代になってしまうなど従業員の年代に間隔ができてしまう。事業承継も大事だが、技術承継も非常に喫緊の課題である。オーダーメイド型人材育成は現在どれくらいの企業数が取り組んでいるか。

→(産業技術センター)令和元年度は29名35社。多い年はこの倍になることもあるが、例年30から40社程度で推移している。

○利用企業の満足度が99%となっているが、利用していない企業の満足度はどう把握しているか。

→(産業技術センター)

・利用されていない企業がなぜ利用されていないかの把握はなかなか難しい。企業訪問などで最近利用されていない企業を訪問して意見をお聞きするとか、2年に1回アンケートをするなどしているが、ちゃんと把握できているかという点難しい。

・ただ、利用企業数は増えてきており、新規の延べ利用件数が247件で、利用企業数が1,000社を超えている。いったんセンターから離れていても、また利用しようという企業が増えているという実績が出ている。

○年度終盤に開催しようとしていた各種セミナーはコロナ禍で延期になってしまったが、こうしたセミナーを今後どうフォローしていくかが課題ではないかと思う。

→(産業技術センター)昨年導入したWEB会議システムを活用しながら、県の方針や社会の状況を見ながらやっていく。

○ロボットハブの開所を昨年拝見した。内容的に充実しているが、入り口のところ、イシューを見つげるところのセミナーが見当たらなかった。既存の課題に対して、入り口感が少し見えなかったのご説明をお願いしたい。

→(産業技術センター)ロボットハブの関係は昨年、(ロボット等導入)セミナーを開催して、R2はさらに中上級の内容に強化している。これらのセミナーは、企業アンケート、企業訪問で把握したニーズをもとにしている。こうしたニーズを伺う機会そのものが入り口のディスカッションになっており、結果として、AIの講座などは定員オーバーになった。

○国際認証取得に関する相談等は少なかったとあるが、HACCPとか食品の関係は華々しく活動しているが、そのほかはどういう状況か。国際認証取得で実施されたものや実施に対してあまり広報していなかったとか、そのあたりのご説明をお願いしたい。

→(産業技術センター)HACCPの活動が多いのは、県からの委託事業によるもの。専門員2名が、相談を積極的に受けている状況。そのほかは確かに少し広報が不足しているところもある。それは反省点。MTEPのWEB会議に当センターも参画しているので、その広報をR2は積極的にやっていきたい。

○相談件数、内容とも幅広く対応されている。当然ながら「ものづくり」がメインになるかと思うが、飲食とか、それから観光サービスなど、そうした分野に産業技術センターが関わるようなきっかけがもう既にあるのか。また、そうした違う角度からの相談がこれまでにあったかどうか。

○産業技術センターの存在を、まだまだサービス産業の方は知らないでいて、どういうふうに関わっていいかわからないというのがあるかと思う。観光それから飲食は成長産業であるし、同時に今一番大きな打撃を受けている産業であるかとも思っている。そういった意味で、鳥取県の産業

の底上げができるようなそういった事業の展開も期待したい。

→(産業技術センター) 農業関係、6次産業関係など飲食関係の相談は多い。何とかこれを商品化したい、というようにいろいろな相談もある。HACCP義務化も含めて講習会等も開催しており、相談につながるきっかけはいろいろある。通り一遍の講習だけではなくて、企業が抱えている課題はそれぞれなので、お話を聞きながら、その企業のこだわりをうまく表現していくにはどうしたらいいか、企業のこだわりを何とか流通に乗せるような工夫も含めて相談に応じている。

○メインに据えているAIあるいはIoT・ロボティクスで、産業を底上げしてということに関しては、必ずしもウェブばかりでできるとは思えない。コロナの第二波とか第三波がどうなっていくかということもあるが、その辺りの影響とか見込みというのはどう考えているか。今年度は、去年から始まって(第4期の)2年目だが、その辺りは今までどおりの順調でうまくいくかどうかということも、どういうふうな感触をお持ちなのか。

→(産業技術センター) ロボット系の人材の育成事業については第二波というのを想定しており、12月までには終わるよう、この7月の末から11月まででセミナーの開催を集中して開催予定。密な状態にならないよう、上・中級と参加者を絞り、大体10名程度で実施する。

○規模縮小してうまくやればということかもしれないし、状況もどうなるか分からないが、うまくAIとかIoT関係を進めていけば、いろんなことに対応できるかなというところで期待しているので、頑張ってください。

⇒質疑応答終了後、産業技術センター退出

・評価方法、評価スケジュールの確認のほか、事務局から次回開催日のご案内

(以上)